

「山都町の学校教育環境のあり方について」

資料6

育てたい子ども像	①子ども達の現状	②教育課程の改善	③学級・学校規模の改善	④地域との連携・協働
自分で考え行動する子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○常に同じ相手と接することで、相手の気持ちはよく理解できるが、それ以外の相手と接する機会が少なくなり、新しい相手への理解や接し方を学ぶ場が限られる。(コミュニティの規模の問題) 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション力の育成 ○アクティブラーニングの活用(主体的・対話的で深い学び) ○目標を立て、それを達成するにはどうすれば良いか、自分で考え行動する力をつける。 ○色々な考え方を理解し、許容する力を育成する。(対応力、柔軟性) ○自ら発信・発言する力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アクティブラーニングの対話的な学びを実践するにはグループでの活動が必要になる。グループ活動を行うには、少なくとも1グループ4人以上で、3グループ以上の設置が望ましい。 ○クラスで数グループを作り、それぞれに目標を与え、どうしたら達成できるかグループで話し合い、計画を立てて実行し、成果を発表する。 ○クラス全体で話し合いを行い、クラス全体の目標を決める。目標を達成するにはどうしたらいいか、それぞれ個人で考え発表を行い、クラス全体の計画を立て、どう行動するか共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域でのあいさつ、褒める・叱るといった地域の教育力の活用
自分の夢に向かって切磋琢磨出来る子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○競い合う相手が少ないことで、学級内での『学力』『体力』が固定され、向上心や競争心が生まれにくくなる。 ○人数が少ないことで部活動等団体競技が制限される。また、競技の選択肢が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○向上心、競争心の育成 ○小中一貫教育の検討 15才をゴールとし、例えば小1～小4、小5～中1、中2～中3と区切りを付けることで、成長の実態の過程を見ながら教育を進めて行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○競い合う相手を多くすることで、自分に近い、達成しやすい目標ができ、小さな達成感を何回も経験することが可能となる。また、向上心や競争力を育むことが出来る。 ○順位といった目に見える目標を作ることで、自分の位置を確認することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の充実 ○職場体験等活動の充実 ○地域資源の活用
地域の「モノ・ヒト・コト」を大切に作る子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のことをしっかりと勉強していて、文楽など地域の伝統文化行事に参加している。 ○緑の少年団などの地域産業・環境保護に関わる活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的学習の時間を拡充する。 ○生活体験、職場体験の活用。 ○地域のことを深く知ること、愛着や親近感を作り、地域を大切に考える心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と協働するためのコミュニティスクールの推進 ○異学年(複数の学年集団)の子どもの集団で地域活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクールを活用し、地域への学校運営の周知及び理解を図り、学校行事への参加や、校外学習の機会確保を進める。 ○地域の祭りへの子ども達の活動充実 ○幼保小中連携(交流)の推進(子ども会等地域活動)(3歳～15歳) ○矢部高校との連携事業の推進